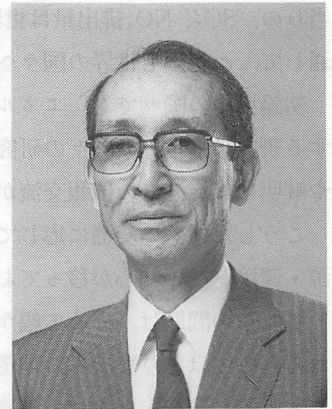


■ 会長就任あいさつ ■

「会長就任にあたって」

エネルギー・資源学会会長
東京電力(株) 最高顧問

三 井 恒 夫



この度、田中前会長の後を受けて、エネルギー・資源学会の会長に選出されました。誠に光栄に存ずるとともにその責任の重大さを感じています。

エネルギー・資源学会は、昭和55年に設立されました。前田先生、水科先生をはじめ、エネルギー・資源に御関心の高い先生方が相集い、本問題に関し自由に率直に話し合うことを目的として発足したと伺っています。

わが国が二度にわたるオイルショックから立ち直りを見せ始め、エネルギーに関して、それ程深刻に受けとめられなかった時期に、事の重大性を認識され、本学会を設立された御達見には深く尊敬の念を禁ずる事ができません。

ほどなくしてCO₂による地球温暖化がクローズアップして来ました。この地球環境問題は、エネルギー問題と不可分の関係にあり、今や世界各国がこれにいかに対応するか大きな課題となっています。

申すまでもなく私共の豊かな生活、人類の幸せには、エネルギーは欠かせないものでありますし、同時に環境問題も切りはなすことの出来ない重要な問題です。

この4月に中国へ参りましたが、大都市では人、自転車の洪水に加えて、タクシー、大型バス、トラックが急増しているのに驚きました。一方、都市を一步はなれると、まだ馬の荷車がのんびりと道路をふさいでいますし、運河には船の往航が頻繁でした。こうした交通手段がやがて便利な車に変わって行くことでしょう。それに伴って、新たなエネルギーが必要とされます。広大な土地と多くの人々の住むこの国が、今後経済発展し、どれ程のエネルギーを消費するようになるかを想像すると正にエネルギー問題はわが国の国内問題ではなく、全地球的な、グローバルなものであると痛感しました。

また、電力については毎年1300万kWの電源増強を行っていますが、それでも供給力が不足しているとのことです。今後当分はこの電源開発のペースが増えることはあっても、減少することはないでしょう。これらの電源の大部分は、中国国内に豊富にある石炭を利用しています。したがって、石炭燃焼に伴う硫黄酸化物や窒素酸化物による大気汚染が大いに気になるわけです。今回お目にかかった電力工業部や電機工程学会の幹部の方々は、口をそろえてこれからは環境問題が重要であると言っていました。私が7年前中国で環境対策についてお尋ねした時とは、全く変わっていました。当時は電源増強が第一で、環境対策を考えている余裕はないと言っていました。これからは、中国も世界の一員として技術と資金の問題を克服して環境改善につくしてくれる事と期待しています。

日本のエネルギーや環境改善に関する技術レベルは極めて高水準にあります。たとえばエネルギー変換効率は供給側、消費側とも世界の国々と比較して高く、電力関係の環境技術では単位発電電力量

当りの、SO_x、NO_x排出量は世界各国より1ケタ程度少なくなっています。このような優秀な技術を通して、わが国も世界の国々へ貢献していく役割が大切になってきています。

勿論世界の国々でも、エネルギー・環境技術の研究開発が進められています。特に地球温暖化に関する研究は、世界の国々の研究者がデータを交換しながら解析予測を行っています。地球環境の観測や解明には海外との情報交流が必要であり、手をとりあってその解決にあたって行かねばなりません。

こうした情勢の変遷に応じて本学会も「エネルギー・資源」の問題から必然的に「エネルギー・資源・環境」へと関心が移っており、研究調査の範囲も拡大しています。

これらの問題は、極めて幅が広く、相互に関係が深く複雑でありますので、単一解答が即座に得られるものではありません。地道に息長く、真剣に取り組む事が大切だと思います。グローバルな活動や実証的な研究とともに、基礎的な実験的な研究も必要と思います。

本学会がエネルギー・資源・環境に関心を持つ会員の真摯な情報交換、討論の場として益々発展することを心から期待しています。

私も微力ながら学会の発展にお力添えしてまいりたいと思いますので、御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

